

四半期報告書

(第16期第3四半期)

株式会社フォーシーズホールディングス

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
2 【その他】	15
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	16

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成30年8月10日

【四半期会計期間】 第16期第3四半期(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

【会社名】 株式会社フォーシーズホールディングス

【英訳名】 4Cs Holdings Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 洲崎 智広

【本店の所在の場所】 福岡市中央区薬院一丁目1番1号

【電話番号】 092-720-5460

【事務連絡者氏名】 経営企画室 室長 内野 紗希

【最寄りの連絡場所】 福岡市中央区薬院一丁目1番1号

【電話番号】 092-720-5460

【事務連絡者氏名】 経営企画室 室長 内野 紗希

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 累計期間	第15期 連結会計年度
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日	自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日	自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日
売上高 (千円)	2,107,309	1,668,063	2,668,408
経常利益 (千円)	149,778	47,058	161,356
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失(△) (千円)	202,684	△2,938	200,597
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	202,684	△2,938	200,597
純資産額 (千円)	1,479,431	1,477,088	1,478,076
総資産額 (千円)	3,288,729	3,168,131	3,268,285
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額(△) (円)	29.51	△0.43	29.21
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	44.9	46.4	45.1

回次	第15期 第3四半期連結 会計期間	第16期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	20.82	2.41

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第15期第3四半期連結累計期間及び第15期連結会計年度については希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、第16期第3四半期連結累計期間については希薄化効果を有する潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、前連結会計年度において、「カラーコンタクトレンズ事業」を営むクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡したため、第1四半期連結会計期間より、当社の報告セグメントは「コミュニケーション・セールス事業」及び「化粧品卸事業」の2セグメントとなっております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び当社の関係会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用情勢の改善、設備投資の増加等を背景に、緩やかな回復基調の動きが続いております。一方で、米国の保守主義政策による貿易摩擦など国際経済の不確実性も依然として懸念されており、不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、中長期的な更なる成長に向けて、各事業会社がそれぞれの特性に合わせた積極的な施策を推進してまいりました。

また、前連結会計年度にクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡したことにより、前第3四半期連結累計期間に比べて、売上高が424,220千円減少しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,668,063千円(前年同四半期比20.8%減)、営業利益54,742千円(同43.9%減)、経常利益47,058千円(同68.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失2,938千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益202,684千円)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。なお、前連結会計年度において、「カラーコンタクトレンズ事業」を営むクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡したことにより、当連結会計年度における当社の報告セグメントは、「コミュニケーション・セールス事業」及び「化粧品卸事業」の2セグメントとなっております。

(コミュニケーション・セールス事業)

コミュニケーション・セールス事業におきましては、新たな顧客層の取り込みとリピート率の向上を図るための施策に取り組んでまいりましたが、新規顧客の獲得に苦戦する状況が続いております。その他、Web・スマホ対応にも注力してまいりました。これにより売上高1,133,975千円(前年同四半期比7.2%減)、セグメント損失12,571千円(前年同四半期はセグメント利益13,822千円)となりました。今後も引き続きラジオによる新規顧客の獲得や、Web販売強化のためのサイト構築など、積極的なマーケティング活動を行ってまいります。

(化粧品卸事業)

化粧品卸事業におきましては、古くなった角質を除去するための商品『ナチュラルアクアジェル Cure』及び岩塩を原料とする入浴剤『Cure バスタイム』は依然として、市場でも高い評価を受けております。本年2月から販売開始しております、酵素の力で汚れを落とす『エクストラオイルクレンジング Cure』及び、酵素で汚れを分解し泥で吸着させる『スペシャルパウダーソープ Cure』の2つの商品は、順調に販売店舗数を広げております。さらに、6月には肌のひきしめ効果と馬プラセンタに含まれる保湿成分にこだわった美容液化粧水『モイストセラムローション Cure』の販売を順次開始しております。これにより売上高537,458千円(前年同四半期比16.6%増)、セグメント利益132,700千円(同7.4%増)となりました。今後も新商品の導入などを行ってまいります。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は3,168,131千円（前連結会計年度末3,268,285千円）、その内訳は流動資産2,528,125千円、固定資産640,005千円となり、前連結会計年度末に比べ100,153千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の増加91,679千円、商品及び製品の増加61,073千円、その他流動資産の減少214,818千円、のれんの減少34,887千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は1,691,043千円（前連結会計年度末1,790,208千円）、その内訳は流動負債816,090千円、固定負債874,952千円となり、前連結会計年度末に比べ99,165千円減少いたしました。これは主に、買掛金の増加18,077千円、未払法人税等の増加9,373千円、株主優待引当金の減少29,522千円、長期借入金の減少107,211千円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は1,477,088千円（前連結会計年度末1,478,076千円）となり、988千円減少いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失2,938千円を計上したこと等によるものであります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,973,470	6,973,470	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100 株であります。
計	6,973,470	6,973,470	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成30年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年4月1日～ 平成30年6月30日	—	6,973,470	—	882,788	—	348,109

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成30年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 106,200	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 6,788,500	67,885	—
単元未満株式	普通株式 78,770	—	—
発行済株式総数	6,973,470	—	—
総株主の議決権	—	67,885	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式100株（議決権1個）が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式90株及び証券保管振替機構名義の株式50株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成30年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(株)フォーシーズホールディングス	福岡市中央区薬院 一丁目1番1号	106,200	—	106,200	1.52
計	—	106,200	—	106,200	1.52

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年4月1日から平成30年6月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年10月1日から平成30年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,838,641	1,930,320
売掛金	143,632	149,667
商品及び製品	264,847	325,920
原材料及び貯蔵品	22,409	20,231
その他	316,840	102,022
貸倒引当金	△12	△36
流動資産合計	2,586,358	2,528,125
固定資産		
有形固定資産	33,349	33,182
無形固定資産		
のれん	164,732	129,845
顧客関連資産	368,807	343,076
その他	72,383	84,633
無形固定資産合計	605,922	557,555
投資その他の資産	42,653	49,267
固定資産合計	681,926	640,005
資産合計	3,268,285	3,168,131
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,643	59,721
短期借入金	450,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	154,072	144,964
未払法人税等	3,375	12,749
賞与引当金	14,653	9,000
返品調整引当金	825	869
株主優待引当金	29,522	—
その他	138,038	138,786
流動負債合計	832,132	816,090
固定負債		
長期借入金	870,810	763,599
資産除去債務	17,153	17,190
その他	70,112	94,163
固定負債合計	958,076	874,952
負債合計	1,790,208	1,691,043
純資産の部		
株主資本		
資本金	882,788	882,788
資本剰余金	348,117	348,117
利益剰余金	273,855	270,917
自己株式	△29,938	△30,345
株主資本合計	1,474,823	1,471,477
新株予約権	3,253	5,610
純資産合計	1,478,076	1,477,088
負債純資産合計	3,268,285	3,168,131

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	2,107,309	1,668,063
売上原価	735,299	391,975
売上総利益	1,372,009	1,276,087
返品調整引当金戻入額	994	825
返品調整引当金繰入額	871	869
差引売上総利益	1,372,132	1,276,044
販売費及び一般管理費	1,274,603	1,221,301
営業利益	97,528	54,742
営業外収益		
受取利息	4,546	2,945
貸倒引当金戻入額	64,249	—
受取手数料	264	—
その他	4,163	1,243
営業外収益合計	73,223	4,189
営業外費用		
支払利息	14,528	11,728
事務所移転費用	5,877	—
その他	567	146
営業外費用合計	20,974	11,874
経常利益	149,778	47,058
特別利益		
新株予約権戻入益	7,695	—
子会社株式売却益	108,459	—
特別利益合計	116,154	—
税金等調整前四半期純利益	265,932	47,058
法人税、住民税及び事業税	29,766	26,733
法人税等調整額	33,481	23,262
法人税等合計	63,248	49,996
四半期純利益又は四半期純損失(△)	202,684	△2,938
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	202,684	△2,938

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	202,684	△2,938
四半期包括利益	202,684	△2,938
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	202,684	△2,938
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
クレイトン・ダイナミクス株式会社	143,100千円	130,680千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)
減価償却費	40,528 千円	44,828 千円
のれんの償却額	40,530	34,887

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	コミュニケーション・セールス事業	化粧品卸事業	カラーコンタクトレンズ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,222,279	460,809	424,220	2,107,309	—	2,107,309
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	144	—	144	△144	—
計	1,222,279	460,953	424,220	2,107,453	△144	2,107,309
セグメント利益又は損失(△)	13,822	123,510	△70,073	67,260	30,268	97,528

(注) 当第3四半期連結会計期間期首をみなし売却日とし、カラーコンタクトレンズ事業を展開していたクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡したことにより、当該事業については、第2四半期連結累計期間までの業績を含めております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額
	コミュニケーション・セールス事業	化粧品卸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,130,640	537,422	1,668,063	—	1,668,063
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,334	36	3,370	△3,370	—
計	1,133,975	537,458	1,671,433	△3,370	1,668,063
セグメント利益又は損失(△)	△12,571	132,700	120,128	△65,386	54,742

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
報告セグメント計	67,260	120,128
全社収益(注)1	170,700	173,700
全社費用(注)2	△142,627	△177,726
その他の調整額	2,196	△61,359
四半期連結損益計算書の営業利益	97,528	54,742

(注) 1. 全社収益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料等であります。

2. 全社費用は、当社における持株会社運営に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日）

当第3四半期連結会計期間において、カラーコンタクトレンズ事業を展開しておりました連結子会社であるクレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡し、当第3四半期連結会計期間期首をみなし売却日として、連結の範囲から除外したことに伴い、カラーコンタクトレンズ事業のセグメントの資産が904,717千円減少しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日）

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第3四半期連結累計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日）

（のれんの金額の重要な変動）

カラーコンタクトレンズ事業において、連結子会社であるクレイトン・ダイナミクス株式会社を連結の範囲から除外したことにより、のれんの金額が37,537千円減少しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日）

該当事項はありません。

5. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結累計期間（自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日）

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日）

当社は、前第3四半期連結会計期間期首をみなし売却日として、クレイトン・ダイナミクス株式会社の全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結会計期間より「カラーコンタクトレンズ事業」を報告セグメントから除外しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額(△)	29円51銭	△0円43銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (△)(千円)	202,684	△2,938
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は親会社株主に帰属す る四半期純損失金額(△)(千円)	202,684	△2,938
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,868	6,867
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整 後1株当たり四半期純利益金額の算定に含 めなかった潜在株式で、前連結会計年度末 から重要な変動があったものの概要	平成28年11月11日取締役会決議 第13回ストック・オプション (普通株式 48,000株) 平成28年11月11日取締役会決議 第14回ストック・オプション (普通株式 45,500株)	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第3四半期連結累計期間については希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため、当第3四半期連結累計期間については希薄化効果を有する潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年8月10日

株式会社フォーシーズホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野 澤 啓 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池 田 徹 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フォーシーズホールディングスの平成29年10月1日から平成30年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年4月1日から平成30年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年10月1日から平成30年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フォーシーズホールディングス及び連結子会社の平成30年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成30年8月10日
【会社名】	株式会社フォーシーズホールディングス
【英訳名】	4Cs Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 洲崎 智広
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	福岡市中央区薬院一丁目1番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 洲崎 智広は、当社の第16期第3四半期（自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。